

日時： 2023 年 10 月 29 日（日） 17:15～18:00

開催方式：対面形式（近畿大学）

出席理事・監事：

（対面） 樗木・南津・笠原・佐藤・中村・畠山・山内・稲永

（遠隔） 石原、富成

書記：笠原

■審議事項

・第 1 号議案：前回議事録の承認

→承認された。

・第 2 号議案：会員の異動（南津）

→次回理事会で改めて整理して報告する。

・第 3 号議案：第 13 回年次大会の申し送り事項

→委員長の金井先生より次回理事会でご報告いただく（確認しておきたいことについて理事から意見が出たが、次回年次大会と重なる点が多かったので、第 4 号議案の項に記した）。

・第 4 号議案：第 14 回年次大会について

→・関東地区が担当になる。

・必ずしも委員長の勤務校を会場校にする必要はなく、会場費が無料もしくは低い金額の大学を確保することを優先すべき。また補助が出る大学もあるので、その点も含めて検討する。

・大会参加費について、値上げを検討してもよいのでは。昼食代込みで会員 1000 円という金額が見合っているのか。ちなみに JACET は昼食が出ないにも関わらず 7000 円だった。

・ちなみに今回の場合、参加人数は 32 人と賛助会員で、ケータリング代金は約 13 万 8000 円。これを参加費に上乗せした場合、4000～5000 円程度になる。

・非会員の場合、会員になった方が安い、というくらいの金額設定にしてもいいのでは。

・第 5 号議案：来年度理事改選への対応（改選者：樗木、杉村、南津、石原、笠原、佐藤、富成、中村）

→・改選者が多いため、今の内から話し合った方が良さだろう。

→次回理事会で案を出せるよう準備を進めておく。

・地区ごとに人数のバランスを合わせるのかどうか。

・登記が必要なので、来年度第 1 回の理事会で印鑑を持参していただき、すぐ提出できる準備をしておくべき。

・第 6 号議案：理事の改選にあわせた、登記上の本部の移転

※登記上の所在地である大阪公立大学の相田先生が 2024 年度で定年退職されるため。なお、理事の改選と本部移転に伴う登記のため 2024 年度期は 25 万円の費用が発生する

→可能な限り節約に努め、さらに社団法人を NPO 法人や任意団体等、別の形態に変更することも、以前から検討されていたが現実の課題として取り組むべき。

・第7号議案：学会誌の早期のオンライン化の検討

※年次大会を対面形式で開催して学会誌を発刊すると、経理上は毎年赤字になる

→・オンライン化すると毎年30万円くらい浮くことになる。

- ・学会誌が紙媒体で発行されていることを年会費7000円のメリットと感じている会員もいるかもしれないが、会員数が激減している中、赤字体質の現状は改善すべき。
- ・紀要をオンラインのみとしている大学もある。
- ・染谷先生はオンライン化を早くから主張されていて、その分を出版助成等に充てるべきと提案されていた。
- ・オンライン化されれば発表も早まり、その分、引用の機会も増えるので投稿者にとっても利益だと考えることもできる。
- ・3～5年かけてオンライン化に向けて準備を進めるべき。改選後の理事につなげていけるよう、この1年で結論を出したい。
- ・ちなみに『時事英語学研究』も含めた過去のアーカイブを学会HPで公開している。

・第8号議案：学生会費の導入の検討

→・定年退職のタイミングで退会、という方が非常に増えている。このままだと尻すぼみで、対応を急ぐ必要がある。

- ・ちなみにJACETの年会費は一般9000円、学生は5000円。
- ・会員が増えている学会は大学院生が入会しており、学生会費を設定している。定款を調べ、次回総会に諮れるようにしたいが、とりあえずこの理事会で理事の方の合意を得たい。→了承された。

※次回理事会は2～3月ごろに開催予定。

以上